

令和 7 年度予算

第 50 期予算

常磐湯本温泉株式会社

第50期（令和7年度）予算の件

（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：千円）

科目名	第50期予算				
	50期予算	50期概算	概算比	49期決算	決算比
純売上高	157,680	157,680	0	157,680	0
売上原価	73,108	72,609	① 499	75,223	-2,115
売上総利益	84,572	85,071	-499	82,457	2,115
一般管理費	13,199	12,441	② 758	12,316	883
租税公課	3,902	3,902	0	3,903	-1
減価償却費	51,827	46,310	③ 5,517	43,504	8,323
販売費・一般管理費	68,928	62,653	6,275	59,723	9,205
営業利益	15,644	22,418	-6,774	22,734	-7,090
営業外収益	264	264	0	453	-189
営業外費用	187	187	0	187	0
経常利益	15,721	22,495	-6,774	23,000	-7,279
特別利益	0	0	0	5,445	-5,445
特別損失	300	300	0	12,285	-11,985
税引前当期純利益	15,421	22,195	-6,774	16,160	-739
法人税等	6,323	9,100	-2,777	5,998	325
当期純利益	9,098	13,095	-3,997	10,162	-1,064

【主な増減の理由（対概算比）】

①売上原価（概算比499千円増）

・労 務 費：若年層を中心とした賃金改定により概算時比556千円増。

②一般管理費（概算比758千円増）

・創立50周年記念事業費100千円増、悠健クラブ0.5口→1口に変更による375千円増等。

③減価償却費（概算比5,517千円増）

・概算時に、37kw揚湯ポンプ（1,980千円）、ステンレス揚湯管（455千円）、送湯ポンプINV（1,715千円）、流量計（450千円）及び監視制御システム（970千円）の計5,570千円の計上漏れと、今期の設備投資額の精査（△53千円）により5,517千円増。

1. 第 50 期予算編成について

(1) 純売上高(157,680 千円)

	毎分 (m ³ /m)	年間供給量 (m ³)	税込 (千円)	税別売上 (千円)
SRH	3.5	1,839,600	110,376	100,342
いわき市	2.0	1,051,200	63,072	57,338
合計	5.5	2,890,800	173,448	157,680

(2) 売上原価 (73,108 千円)

ア. 労務費 (27,894 千円)

- ・ 現員 5 名で算出しています。
- ・ 社員給与・社員賞与・法定福利費・社員退職積立金を計上しています。

イ. 電力費 (21,650 千円)

- ・ 電力使用契約は「高圧・季節別:時間帯別:電力 S 型」とします。
- ・ 電力使用量は直近 4 年間の平均値は約 84.5 万 kwh でした。
- ・ 電力単価は直近4年間の平均が 22.60 円/kwh でした。
使用量と電力単価に加え、直近の再エネ賦課金の状況など電力費を取り巻く情勢等を考慮して算出しました。

ウ. 支払修繕料 (18,500 千円)

- ・ 主な修繕工事
 - ① 送湯管路管理道路修繕工事 (4,800 千円)
 - ② 揚湯ポンプオーバーホールモーター交換工事 (3,100 千円)
 - ③ ポンプ場内揚湯管(バルブ等)更新工事 (2,500 千円)
 - ④ 送湯ポンプオーバーホール工事 (2,000 千円) など

(3) 販売管理費 (68,928 千円)

ア. 一般管理費 (13,199 千円)

- ・ 今年度は創立から 50 年目につき、記念事業の費用も計上しています。

イ. 減価償却費 (51,827 千円)

- ・ 既取得分 (47,391 千円)

- ・ 新規取得分 (4,436 千円)

※ 参考 今年度の主な設備投資について

設備投資額 (66,300 千円)

- ① 揚湯井戸二重ケーシング改良(4号井戸)工事 (30,000 千円)
- ② ポンプ場内揚湯管更新(RC槽)工事 (12,600 千円)

など、揚湯・送湯設備の安定化・効率化に関する設備投資を行います。

2. 今後の事業運営に係る課題と対応方針

(1) 現状

昭和 51 年の創業後、平成 2 年より湯本町台山地内において揚送湯設備を更新し、温泉の安定供給に努めてきた。しかし、各設備とも長期使用に伴う老朽化の進行が見受けられる状況にある。このことから、各設備の計画的な点検や修繕・更新を実施し、より効率・効果的な運転管理を行うなど、将来に渡って安定的に供給できるよう事業運営に取り組んでいる。

(2) 課題と対応方針

現状の課題とその対応方針は次のとおり。

① 老朽化の進行

送湯管をはじめ、揚湯井戸や電気制御設備などの老朽化・劣化が進行しており、適切な修繕や更新が必要な状況である。

【対応方針】

ア. 点検・診断・修繕(更新)のサイクルを構築し、状態を把握した上で適切な修繕や計画的な更新を実施する。

イ. 劣化損傷が軽微なうちに補修対策を講じ、設備の延命化・長寿命化を図る。(予防保全型管理への移行)

② 安全性の向上

各種リスクからの軽減を図り、温泉の安定供給を推進するため、引き続き各種リスクに的確に対応した安全対策を進める必要がある。

【対応方針】

ア. 想定される災害・事故を選定し、発生するリスクを洗い出したうえで、効果的な対策を講じる。(以下、想定される事例)

- ・ 直撃雷(ポンプ、電気制御機器破壊) ⇒ 断湯 ～ ポンプ保有、予備電気制御室築造
- ・ モーター絶縁劣化(ポンプ停止) ⇒ 断湯 ～ 自動切換運転装置導入
- ・ 集中豪雨(法面崩壊管路破損) ⇒ 断湯 ～ バイパス管路築造
- ・ 河川氾濫(水管橋崩壊) ⇒ 断湯 ～ 河川横断部推進管築造

イ. 各種リスクの影響度の評価及び優先順位付けを行い、実現可能な対策を検討し決定する。(以下、想定される事例)

- ・ 直撃雷(ポンプ、電気制御機器破壊) ～ 可能性:低、影響度:極めて高
- ・ モーター絶縁劣化(ポンプ停止) ～ 可能性:高、影響度:高
- ・ 集中豪雨(法面崩壊管路破損) ～ 可能性:低、影響度:高
- ・ 河川氾濫(水管橋崩壊) ～ 可能性:低、影響度:極めて高

③ 収支バランスの更なる改善

現事業計画(修繕・設備投資計画)を基にした向こう5年後の収支予測では、一定の現金残高を有するものの、その間、万一、大規模災害等が発生し、施設・設備が全損した場合は、その復旧対策により現金残高が枯渇する可能性もないとはいえない。

このため、キャッシュフローを踏まえた修繕・設備投資計画を再構築するなど、有事にも対応しうる足腰の強い会社経営を目指していく必要がある。

【対応方針】

- ア. 設備投資や修繕工事においては、ライフサイクルコスト及びエネルギーコスト(省エネ)削減の観点から、設備や機器の選定・導入を検討し、支出削減を図る。
- イ. 万一の際の復旧費用として、現金ストック(約3億円)を確保するため、事業計画等のローリングを行う。
- ウ. 万一の備えとして、施設・設備にかかる損害保険のあり方を検討する。

④ 新たな人材の確保

技術部社員においては、近々、連続して60歳定年を迎える状況にある。技術の伝承と経営の安定化のため、新たな人材の確保が必要である。

【対応方針】

- ア. 即戦力となる人材確保を図るため、同種の業務経験を有する者の中途採用を視野に人材の確保策を検討する。
- イ. 現在在籍するベテラン技術職員から次世代を担う若手職員への、技術継承のための仕組みを検討する。

(3) 今後の展望

当社を取り巻く環境は、エネルギー価格や原材料価格の高騰、さらには部品調達の難航などにより、今後も依然として厳しいものになると予想される。また、各設備の長期使用に伴う老朽化対策や温泉の安定供給に不可欠な安全対策は喫緊の課題である。

このような状況においても、当社はいわき湯本温泉唯一の源泉湯場として、温泉の安定供給を第一に、事業運営する責務を有している。

このため、激しい環境変化にも十分に対応できる財務体質の確立と、今後予想されるリスクに柔軟に対応できる事業計画の構築等を図り、当社の持続的発展と経営の安定化の実現を目指していく。